

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

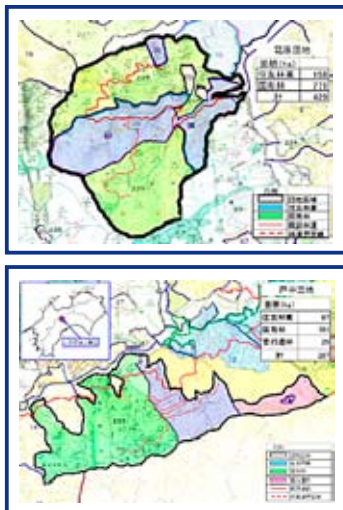
No.1074 2009 年 9 月号

～四国初の会社有林と国有林の協定締結～

住友林業(株)新居浜山林事業所と嶺北森林管理署は、社有林と国有林の共同施業団地の設定を行いました。

【詳細は2頁以降に掲載】





地球温暖化の防止には、森林の有する二酸化炭素の吸収機能をより高める間伐等の森林整備を適切に行っていくことが重要です。

また、この森林整備を推進していくためには、森林を所有形態で分断するのではなく、一定のまとまりをもつて取り扱うこと、整備に不可欠な作業道を効果的に配置すること等により、森林整備の効率化を図っていく必要があります。



効率的な作業道を核とした森林整備推進協定の締結

～四国で初めての会社有林と国有林の協定締結～

〈嶺北森林管理署〉

地（戸中二八七ヘクタール、葛原四二九ヘクタール）を設定し、平成二十年八月六日に「いの町本川地域（戸中・葛原）の森林整備の推進に関する協定」を締結しました。

今回の協定は、民有林と国有林が連携して作業道の開設や間伐等の森林整備を適切、かつ効率的に行なうとともに、森林資源の循環利用を促進し、健全で豊かな美しい森林づくりに取り組むことを目的としたものであり、四国森林管理局と住友林業（株）は、この協定を機に、この取組が今後、地域に広がり根付くよう、周辺民有林所有者に対しても森林共同施業団地への参加を呼びかけていくこととしています。

国有林公開講座を開催

〈企画調整室〉

四国森林管理局は、四国の一割に当たる十八万ヘクタールの国有林を管理経営しており、多様化する国民のニーズを踏まえつつ、国土の保全や地球温暖化の防止に向けた森林の整備・治山事業、森林環境教育の実施や森林とのふれあいの場の提供など「国民の森林（もり）」として適切な国有林の管理経営に努めています。

こうした中、「国民の森林（もり）」に相応しい、より「開かれた国有林」を目指し、「美しい森林（もり）づくり」水と森林について考える」をテーマとして、平成二十年八月八日四国森林管理局会議室において「国有林公開講座」を開催しました。当日は、五八名の参加があり、森林管理局より森林の役割や森林管理局の業務について紹介した後、参加頂いた皆様と意見交換を行いました。



が効率的であることから、一定のまとまりを持つ国有林と住友林業（株）とで共同施業団地に設定することとしたもので、国有林と会社有林とによる共同施業団地の設定は、四国では初の取組となるものです。

マに、平成二十年八月八日四国森林管理局会議室において「国有林公開講座」を開催しました。当日は、五八名の参加があり、森林管理局より森林の役割や森林管理局の業務について紹介した後、参加頂いた皆様と意見交換を行いました。

○四国の山は一つなので、民有林と国有林が連携した森林整備が重要。

○天然林が主体の国有林をレクリエーションや癒しの場としての整備を進めて欲しい。

○水源や渓流沿いの森林は、桜や紅葉を残すなど景観に配慮した施業も必要。

などのご意見を頂きました。森林管理局としましては、今後、これらのご意見を業務に活かし、地域の皆様の目線に立った、安全・安心な国土づくりに向けた取組を進めていきたいと考えています。

技術開発の取組を紹介

〈現地公開講座を開催〉

〈森林技術センター〉

八月二二日、『ヤナセスギを次代へ』森林技術センターの取組』と題して当センター主催による公開講座を安芸署管内の千本山で開催しました。

当センターでは、我が国を代表する天然スギであるヤナセスギの純林を後世に引き継ぐため、その天然更新技術の確立に向けて取り組んでいます。国民の皆様はこの技術開発の取組を理解して頂くとともに、林立するヤナセスギの雄大さと美しさを肌で感じて頂くため、昨年度に続き公開講座を開催しました。今年度は、一般公募にて募集した三二名が参加しました。



千本山試験地内での説明の様子

午前中は(独)森林総合研究所四国支所がヤナセスギの天然更新の研究を行っている千本山試験地において、天然更新の取組を紹介しました。参加者からは、「まったく人の手が入っていない森林の試験地はあるのか」、「人工林と天然林の違いは何か」等の多くの質問が寄せられました。

昼からは馬路村の森の案内人と千本山登山を開始しました。

参加者は林立するヤナセスギの太木を前に感嘆の声を漏らす一方で、ヤナセスギの後継樹の無い現状を目の当たりにして、天然更新技術の重要性を実感したようでした。

参加者からは、「魚梁瀬の山々にこのような天然林があることに感動した」、「試験地等の見学やプロフェッショナルの話も聞



魚梁瀬丸山公園にて記念撮影

けて楽しく学ぶことができた」等の貴重な意見・感想をいただき、充実した公開講座を行うことができました。

「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整室〉

平成二一年八月二八日、徳島県・香川県において、「第一回国有林モニター勉強会」を開催しました。当日はまずまずの天気に恵まれて、四国四県から国有林モニター一四名の方に参加いただきました。

当日朝、四国森林管理局を出発、最初の視察地である徳島県三好市池田町の「(独)水資源機構池田総合管理所」を訪問し、池田ダムを視察するとともに同第二管理課長から吉野川流域の利水状況とダムの機能について説明を受けました。参加したモニターからは、「吉野川と早明浦ダムは知っていたが、流域の水資源の説明や池田ダムでの多目的な利水管理について初めて知った」との意見がありました。次に香川県まんのう町にある日本最大の灌漑用ため池(満濃池)及びその上流域にある杵多尾(くぬぎたお)国有林の視察を行いました。現地では、香川



香川の国有林の説明



森林管理事務所上席調整官から香川所管内の国有林の概要と森林整備の状況等について説明を行いました。モニターからは、「搬出方法と素材生産の単価の関係は」、「木材価格が低迷している中で、国は森林整備についてどのような政策を取っているのか」等積極的に質問が出されました。

今回の勉強会では、国有林の現地を視察し、森林の働きや国有林の仕事について説明を行うとともに、吉野川流域の利水状況や池田ダムの機能について直接話を聞くことができ、水の大切さ、また、水源地にある森林の重要性や森林整備の必要性について理解を深めて頂きました。



路網と列状間伐の説明

教育関係者のための森林環境教育支援講座を開催

〈指導普及課〉

八月七日、高知市工石山青少年の家と工石山自然休養林において、「教育関係者のための森林環境教育支援講座」を開催しました。